

協働実践研究会成都支部 第1回勉強会

実施日：2019年6月28日

実施場所：成都中医薬大学 十二橋校舎 第一教棟 159 教室

出席者：成都中医薬大学日本語教師5人、四川師範大学 易曉莉、
西南民族大学 張景一

内容の概要：

まず《日语协作学习理论与教学实践》第二章と第三章の内容を事前に作った質問に沿って、確認した。それから、倪虹先生より今学期読解の授業で使ったピア・ラーニングの流れとアンケート調査の結果を報告した。最後は楊剣先生より翻訳授業のピア・ラーニングの指導実践、張景一先生よりピア・レスポンスの指導実践を報告した。

出席者全員がとても有意義な勉強会で、今後も成都支部で一学期に一回ぐらいの研究会を行って欲しいと言っていた。



読書会に参加した教師の感想

T1 : 読書会を通じて特に印象づけられたのは、協同学習やピアラーニングの本と先行研究もいろいろ読んで、読解授業でも実際に行ってみました。却って知らなくて、使ったことのない内容より新鮮さを感じたことです。読書会で「私だったらこんなふうによく教えられません」、「同じような感想です」、「そういうことに気づきませんでした」などの考えが次々浮かんできました。先生たちの読書感想と実践経験を聞き、協働学習への理解をよりいっそう深化したり、これからどのように協働実践を展開する示唆を受けたりして、協働学習について考え直す貴重な機会になりました。定期的・継続的にこのような活動を行い、いろいろ話し合ったり、考えたりする機会を作っていくことができればいいなあと思います。

T2 : 読書会を通して、学生の主体性の発揮と積極性の向上などの面で自分の不足が気づいた。教育現場での悩みを打ち明けたり、先生方の経験を聞いたりして、日本語教育への理解が深まり、今後授業の改善案もいろいろ考えるようになった。今回の読書会は教師同士が学び合い、話し合いの場として自己成長につながり、とてもありがたい。これから勉強になったことをぜひ授業で実践してみたい。

T3 : 今回の読書会に出てよかったなあと思う。読書会のおかげで、ピア・ラーニングについて理解を深めたり、教師同士でいろいろな体験をシェアしたりして、収穫が多かったと思う。近年は学びの場にも変化が訪れはじめた。すでに多くの教育現場では「協同学習」が取り入れられている。ピア・ラーニングとは、学生参加型・学生主体型の学習方法だと思う。学ぶ側が積極的に授業などの学びの場に参加しながら、自ら考え、自ら能動的に動く、そして他人と「共有する」「協力する」ことで、現代社会で求められている能力を養うと思う。これまで実践を行ってきた翻訳の教育においてこそ、ピア・ラーニングは大きな可能性を持っているのではないかと強く感じた。これから、翻訳・作文の教育ではピアラーニングを取り入れ、学習者同士が互いに補い合いながら翻訳力・作文力を伸ばせるような方法を探りたいと思う。

T4 : 「協働学習」に触れたのは今度は二回目でした。(今年3月に池田先生が成都にいらっしやった時はその一回目だった) そのまえのあいまいだった点と理解不足したところが明確になったような気がします。ワークショップでほかの先生方といろいろ話し合っているうちに、お互いにいま同じ悩みに悩んでいることが分かった。それらの悩みを協働学習の理念に基づく学習方法で解決できることにも気づきました。また実際の日本語教育の現場ですこしぐらいは同じような学習方法を取り入れていることも実感しました。でも、まだ足りない。今日の勉強会をきっかけに、今後自信を持って、日本語学習者たちに新たな教え方を行い、新たな学びの変化を期待しています。

T5 : 前から協働学習を知っていたが、今回の勉強会を通して、協働学習の背景から概念まで、そして教室外の協働から教室内の学習方法まで協働学習の本当の意味が分かるようになった。尚、協働学習のメリットに関しても、前は学習効果だけ考えていたが、実は認知面と情意面における効果もあることが分かった。いま当学では学習者中心の教え方を強く提唱しているが、ピア・ラーニングはまさに学習者中心の学習方法で、作文、読解の授業だけでなく、色々な授業で柔軟に活用できるじゃないかと思う。